

広域図書館行政と図書館再生

— 県立図書館を中心とした共同保存の可能性 —

第 100 回全国図書館大会東京大会
公募型 111 分科会 (11 月 1 日 午前・午後)

NPO法人共同保存図書館・多摩／三多摩図書館研究所(共同企画)

私たちは、東京都多摩地域で広域的な共同保存図書館活動の普及展開に取り組んでいるNPO法人です。

この度の記念すべき第100回全国図書館大会において、三多摩図書館研究所と共同で標記の「公募型分科会」を企画いたしました。お二人の先生からはご講演を、県立4館のみなさまからは資料の共同保存について貴重な実践例のご報告をいただけることになりました。

「ポストの数ほど図書館を」を目標に進められてきた全国の市町村立図書館の現況は、図書館そのものの中身が問われ、もっと身近で、さらに質の高いサービスが求められています。

コンピュータ利用目録の普及で、自館の資料だけでなく、都道府県立図書館や他市町村立図書館の資料検索も容易になり、利用者からは多様な資料の請求・利用が急増しています。

一方で、どこの図書館も資料の収容能力の限界という大きな壁にも直面しています。せっかく蔵書として整備した資料を除籍しなければならず、利用者にとってはつい先日まで所蔵していた資料が処分されてしまい、利用できなくなる場合もあります。

これらは現在の、全国共通の課題ではないでしょうか。

「地域共同保存」の考え方は、ひとまず、そうした状況の一打開策を目指しています。地域共同保存の進め方によっては、その地域全体の所蔵タイトル数を減らすことなく各館の除籍が出来る仕組みや、除籍図書を選択基準の緩和も出来るのではと考えています。それによって書架にゆとりが生まれれば、書架の新鮮さを維持することや、購入図書の選定基準や方法についても新たな考えを生み出す可能性が出てくると思います。また、災害時の資料被災のリスクを分散することにも効果を発揮すると考えています。

したがって、地域共同保存は資料提供能力の向上と確実性が実現でき、広域図書館行政を担う県立図書館にとっては、確かな「図書館再生」策であろうかとも考えます。

今回の分科会を通じて、確実な資料保存と提供を目指す今後の図書館と有機的な広域行政について、具体的な課題と解決の方向性が見えてくればと思います。県立図書館と市町村立図書館が共に担う図書館行政の在り方をめぐって、様々な意見交流が深まれば幸いです。

全国のみなさん、是非是非、お出かけください。

～講演者、報告者から大会要綱に寄せられた文章を抜粋し、紹介します

基調講演（午前） 東京学芸大学教授 山口源治郎

「東京の50年の図書館実践を踏まえて」

…1987年に都立3館が統合され、都立多摩図書館が新たに設置され、市町村立図書館に対する支援・補完活動を主任務としたサービスを開始した。……『中小都市における公共図書館の運営』が「大図書館は中小図書館の後ろ盾」であるとし、都道府県立図書館の役割が市町村立図書館の支援・協力関係にあることを提起した。都立多摩図書館は本格的にそうした役割を引き受ける図書館として登場した。そこには多摩地域における市町村立図書館サービスの一層の発展を実現するためには、都立図書館による支援・協力事業が不可欠であるという現実認識がその背景にあったのである。この意味で多摩地域の図書館は、市町村立図書館のみならず、都立図書館のあり方も含む、地域的な図書館サービス・協力体制の在り方を示すものとなった…

報告①（午前）三多摩図書館研究所 戸室幸治

「調布市立図書館の活動から図書館運営の基本を考える」

三多摩図書館研究所の紀要『図書館研究三多摩』第6号は、今年3月「調布市立図書館」を特集した。調布市立図書館は、約20年前、管理委託の問題が起こるが、直営維持の道を選択した。その後、自己変革を遂げ、現在、見事な図書館運営を行っている。この間の歩みと図書館サービスの内実から、改めて図書館運営の基本を考えることは意義があると考えられる。

…結論を言えば、館長も個々の職員も、一つのあるべき方向に向かって、組織的に努力している職員集団から学ぶべきことは極めて大きいのではないかと…

報告②（午前）NPO法人共同保存図書館・多摩 堀 渡

「『NPO法人共同保存図書館・多摩』が考えてきたこと」

…2003年9月、私たちの母体「多摩地域の図書館をむすび育てる会」（略称「多摩むすび」）のプロジェクトチームが『東京にデポジット・ライブラリーを作ろう！—多摩発・共同保存図書館基本構想—』を発表した。置ききれなくなった蔵書は多摩地域の所蔵状況を調べ、相互協力の活用によって全体で2冊までは残そう。共同運用するデポジットライブラリーを図書館と市民の力で作りだそう。という提案である…

基調講演（午後） 元滋賀県立図書館長 梅沢幸平

「これからの県立図書館の役割と共同保存を考える」

…県立図書館の存在を改めて考えさせられる事案が近年続いた。いずれも背景に行政改革の流れがあり、都道府県立図書館と市区町村立図書館との役割分担論が蒸し返されていた。

広域なエリアを抱える北海道立図書館司書として勤務し、その存在意義を模索したこと、次に縁あって、滋賀県の図書館振興策展開の中で甲西町立図書館（現・湖南市立甲西図書館）館長として設立から関わり、市区町村立図書館の立場から県立図書館のあり方を考えたこと、その後滋賀県立図書館長に招かれ、県内図書館の要として、その到達点を探り苦慮したことなど、私的で管見の経験からだが、これからの県立図書館像を探ってみたい…

…市町村が廃棄した資料を精査し、県立図書館が未所蔵のものは引き取ることで、県立図書館のバックアップ機能として資料提供精度を格段に高めていくはずで県全体の利益につながり、これは県立の仕事だということで県当局との折り合いを図ったようだ。県立図書館第二書庫の「資料保存センター」的役割を実行するにあたり、県立図書館からの一方的な押し付けではなく県内公共図書館が加盟する滋賀県公共図書館協議会の場で正式に何度も協議を重ねた…

事例報告①（午後） 埼玉県立図書館 村中登

「埼玉地域の公共図書館等における資料保存体制」

…平成 18 年度、埼玉県図書館協会・総会で「協定」が承認される。また、図書館協力担当者会で「埼玉県公共図書館等における資料保存実施要領（案）」を提案、承認される…

3 協定の概要（1）「埼玉県公共図書館等における資料保存に関する協定」

対象となる資料は、埼玉県 ISBN 総合目録から抽出した単館所蔵リストにより希少資料であることの確認をするものとし、「著しい汚破損等により利用に供することができない場合を除き、当該資料を所蔵する図書館で責任を持って保存する。」（第 4 条）こととなっている…

（注）平成 25 年度に実施した「埼玉県内公共図書館等における資料保存に関する調査」及び「都道府県域における資料保存に関する調査」は、埼玉県図書館協会のウェブページ (<http://www.sailib.com/cyosa/>) で公開している。

事例報告②（午後） 富山県立図書館 古澤尋三

「『保存と共同利用』をめざす富山県立図書館資料センターの活動」

…資料センターの運用に向けて、平成 10 年 3 月「富山県立図書館資料センター運用規程」（内規第 7 号）が定められた。その骨子は以下のとおり…

（目的）

第 1 条 資料センターの運用は、県立図書館の運営方針「保存のための図書館」に鑑み、県内の公共図書館・県立学校図書館（室）（以下「対象館」という）の定期的な蔵書更新で出る希少資料等を資料センターで収集・保存し全県での活用に資することを目的とする。

（定義）

第 2 条 資料センターとは、県立図書館書庫の一角を県内の対象館の蔵書更新で除籍・廃棄される図書の内、県立図書館の未所蔵図書で、あらかじめ指定する領域のもの 1 冊を、収蔵するための専用スペースを設定して、継続的な収集を行なう機能をいう…

事例報告③（午後） 岡山県立図書館 岡長平 「岡山県立図書館の資料保存」

…2 資料保存センター機能（2）具体的な取り組み

1) 永年保存

2) 市町村廃棄資料の県立図書館受け入れ 平成 18～25 年度受け入れ冊数 14,805 冊

市町村の図書館が廃棄する資料のうち、県立図書館未所蔵分について、県立図書館に移管し受け入れするもの。

各図書館が資料を除籍する際、県立図書館の所蔵状況を調べ、未所蔵のものは、それを搬送便で県立図書館へ送り、県立図書館は寄贈資料として受け入れ保存する。県立図書館は原則として資料を永年保存するため、これにより県域に一点の資料は保存されることになる…

事例報告④（午後） 愛知県立図書館 近藤彰住

「あいちラストワン・プロジェクトについて」

…この事業に参加した図書館は、ラストワンを保存する責任があるので、除籍しようとする図書にラストワンが含まれないかを判別する必要がある。そこで、事前に各図書館の蔵書の中にあるラストワンを特定することにした。そのため、参加館から蔵書データの ISBN または MARC No. を提供してもらい、コンピュータによりデータ照合を行って、重複のない唯一の図書となったものを特定することとした。ラストワンと特定した図書を所蔵している図書館へは、「ラストワンデータ」として提供し、各図書館で蔵書の所蔵データあるいは図書そのものに何らかのマーキングをすることにより、ラストワンであることが認識できるようになった…

●日時 会場 2014年11月1日(土) 明治大学(駿河台キャンパス)
リバティタワー1166教室(16階)

●タイムスケジュール (9:00~17:30)

09:00 受付開始

09:15 開会

基調講演 「東京の50年の図書館実践を踏まえて」
東京学芸大学教授 山口源治郎

報告① 「調布市立図書館の活動から図書館運営の基本を考える」
三多摩図書館研究所 戸室幸治

報告② 「『NPO法人共同保存図書館・多摩』が考えてきたこと」
NPO法人共同保存図書館・多摩 堀 渡

12:10 昼食休憩

13:30 午後の部 受付開始

13:40 開会

基調講演 「これからの県立図書館の役割と共同保存を考える」
元滋賀県立図書館長 梅沢幸平

事例報告① 「埼玉県域の公共図書館等における資料保存体制」
埼玉県立図書館 村中 登

事例報告② 「『保存と共同利用』をめざす富山県立図書館資料センターの活動」
富山県立図書館 古澤 尋三

事例報告③ 「岡山県立図書館の資料保存」
岡山県立図書館 岡長 平

事例報告④ 「あいちラストワン・プロジェクトについて」
愛知県立図書館 近藤 彰住

17:30 閉会

.....

平成26年度(第100回)全国図書館大会東京大会

期 間 2014年10月31日(金)~11月1日(土)

会 場 明治大学駿河台キャンパス アカデミーコモン、リバティタワー

参加費 通し参加(10/31、11/1両日) 7,000円 分科会のみ参加 5,000円

主 催 公益社団法人日本図書館協会

問合せ先 大会事務局

TEL: 03-3523-0811 FAX: 03-3523-0844 E-mail: taikai@jla.or.jp

大会ホームページ <http://jla-rally.info/tokyo100th/index.php/>

参加申込 <https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/jla-100th/>

分科会チラシ作成者: NPO 法人共同保存図書館・多摩
〒182-0011 調布市深大寺北町1-31-18
H P <http://tamadepo.org/>
E-mail depo_tama@yahoo.co.jp